

令和5年度

徳島市加茂名中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的に学ぼうとする生徒を育成するための手立てと工夫

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員

阿部 佳世

委員

校長 杉本 恭介 教頭 松田 和代 岩根 正明  
教務主任 神戸 学 1学年主任 木村 千愛  
1学年学年教務 近藤 江美 2学年主任 田所 寿美  
3学年主任 角 知弘

校長

杉本 恭介

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や、教員からの報告等、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○小テストや定期テスト等、限られた範囲の課題に対しては、一生懸命がんばる姿が見られる。 ●得た知識を活用することが難しい。 ●文章問題が苦手な生徒が多い。	・基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。 ・身につけた知識・技能をほかの学習や生活の場面で活用できる。	・授業規律を徹底する。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業設計で「分かる授業」を展開する。 ・こまめな宿題の提示と朝学習時間の有効活用で、学習内容の定着を図る。 ・小テストを継続的に実施する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○準備の時間をとり、ヒントや選択肢を与えると、堂々と表現することができる。 ●自尊感情が低く、アドリブで自分の意見を発表したり、説明したりすることについて苦手意識をもっている生徒が多い。 ●難しいと感じるとすぐ諦める生徒が多い。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを表現することができる。	・タブレットやホワイトボードを有効に活用して、グループで意見を共有したり、発表したりする機会を設ける。 ・発問を工夫し、生徒の考えを深めさせる。 ・読書活動の推進			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○具体的に説明をしたり、例を示したりすると積極的に取り組むことができる。 ●家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多い。 ●定期テスト等に向けて、自分自身で計画を立てて取り組むことが難しい生徒が多い。	・目標をもち、目標達成に向けて粘り強く努力することができる。 ・繰り返し学習など、学習方法を工夫しながら自主的に家庭学習ができる。	・学期ごとに学習目標と努力事項を考えさせ、学習に対する意識を高めさせる。 ・学カアップナビで、家庭学習のポイントを示し、家庭学習の充実を図る。 ・テスト前に学習計画表を配付し、見通しをもって学習に取り組めるよう支援する。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

